

未申櫓

昔の日本では、方位を十二支の動物で表すことがありました。未（ヒツジ）と申（サル）という漢字は南西の方角を意味していることから、本丸からみて南西に位置するこの櫓の名前の由来になっています。築城当時の櫓は 19 世紀後半に取り壊されました。現在の櫓は、江戸時代（1603-1867）の図面と明治時代（1868-1912）の写真をもとに 2003 年に復元されたものです。外からは 2 階建てに見えますが、実際には 3 階建てになっています。平時には一般的に保管庫として使われていましたが、戦時には防御のために使われていました。武士は、櫓の銃眼や「石落とし」を通して射撃していました。未申櫓の背後の構内には奉行所（奉行丸）がありました。